

「麗澤の馬とふれ合う会」

～2017年度の活動をふり返って～



「麗澤の馬とふれ合う会」

麗輝大学馬術部

「麗澤の馬とふれ合う会」について

「麗澤の馬とふれ合う会」は、地域の障がい児その他の子供達に、馬とふれあう機会をもつことで心身を癒し、さらに自立に向けて何がしかの手がかりを見つけていただくことを目的に 2013年9月に発足しました。

本会には医師もセラピストも居ませんので、「ホースセラピー」として活動するものではありません。参加を希望される方には、「本会はセラピーを行なうものではない。馬とのふれ合いを持つことで得られた気づきをご家庭に持ち帰り、状況の改善や自立に向けて生かしてもらう。そういうことでご理解いただけるのであれば」という趣旨を十分に説明した上で参加してもらっています。

今期の参加者は7組でした。活動に際しては、麗澤大学所有の馬2頭（麗輝、麗峰）を使用し、麗澤大学馬術部の学生およびボランティア数名のご協力を得て、月2回ぐらいのペースで活動を続けて居ます。

乗馬や馬を扱う経験の有無は問いません。「一緒に活動してみたい」、「ボランティアとして手伝ってみたい」・・・という方がおられましたら、下記問い合わせ先までお気軽にご連絡ください。

「麗澤の馬とふれ合う会」

連絡先メールアドレス：ht2011@reitaku-u.ac.jp

本報告書では、平成29年度（2017年4月から2018年2月まで）に参加していた7組のうち、ホームページへの掲載を承諾いただいた参加者3組の保護者、ボランティア2名（母娘）、麗澤大学馬術部員1名の参加レポートを紹介することで、平成29年度の活動報告にかえさせていただきます。

なお、プライバシー保護のため、文中の名前等はすべて仮名を使っていますのでご了承ください。

（文責：「麗澤の馬とふれ合う会」代表 中野 千秋）

1. 田中 恵美（理沙ちゃんのお母さん）

田中 理沙ちゃん（9才）

発達障害、聴覚過敏

うちの子は、精神運動発達遅滞があり、身体面や精神面の発達の遅れがあります。また、特性として聴覚過敏、その他、触角、味覚、視覚などの感覚過敏を持ち合わせています。

数年前から、「馬とふれ合う会」に参加させていただいております。今年度は、せっかくお馬さんに乗せていただくのだから、何か身になることをと思い、夏休みの自由研究にお馬さんについて色々調べてまとめるという目標を立てさせていただきました。

新年度初めての乗馬では、久しぶりでしたが、日時が決まった時からとても楽しみにしていました。イヤーマフ（20デシベル位音が小さく聞こえるもの）をつけての参加にはなりましたが、はじめて会うお友達の様子を見つつも、学生さんとの会話を楽しむ余裕がありました。会話も、今までの訳のわからないことを言って笑っている・・・という感じから、自分の思っていることを伝えようという感じに変化していたので、成長を感じました。また、他の参加者のお友達ともコミュニケーションをとることが多くなり、とても良い時間を過ごさせていただきました。

初回、お馬さんの「視野が350度」ということを初めて知って驚きました。これはまだまだ知らないことがあると思い、お馬さんのことを調べるのが楽しみになりました。

2度目も、イヤーマフを付けたスタートでしたが、終わり間際にヘルメットに取り換えるなど、本人の様子と希望を考慮していただき、その都度こまやかな対応をしていただきました。初めて会うお姉さんがたくさんいた為か、理沙もずっとテンション高く、色々な方に話しかけたり、歌をうたったり、楽しく過ごしました。お馬さんについても、食事のことや、お馬さんは中指で立っているなど、新たなお話を聞くことができました。今まで知らなかったことを知るうちに、ますますお馬さんに興味が湧きました。

3度目の馬とふれあう会は、5月でしたが、とても暑くなり、暑さに弱い理沙はどうなる事かと思いましたが、汗をかいたと言って靴下を脱ぐこともなく（感覚過敏から汗をかいた靴下を履いているとビリビリ痛い感覚になります）、終わり間際に、「水を飲みたい」と学生さんに伝えるなど、自分で自分の状態を考えられていて、自分の気持ちを伝えることができるようになっていました。理沙は、自分の気持ちをうまく伝えられない頃は、ギリギリまで我慢して、大泣きという流れでしたが、自分の気持ちを伝えられるということは、本当に大きな成長です。「学生さんとのやり取りも自然な雰囲気になったよね～」とボランティアの方にも言っていました。本当に自然に話しをしている様子が多くなったように思います。

麗輝君から降りる時に、耳を触らせてもらったり、耳の穴に指を入れていたり、毎回、尻尾だったり、舌だったり、鼻だったり、いつも気になるパーツがあり、観察したり触らせてもらったりしていますが、お馬さんも嫌がることなく触らせてくれるので、いつも大満足で帰らせていただいています。

馬の胸に耳をあてて
鼓動を聞く理沙ちゃん



乗馬後には、おやつを食べながら、学生さんたちの乗馬の様子を見学させていただき、終わった後に、お馬さんが厩舎に戻ってから、人参やリンゴのおやつをあげることが楽しみになりました。と言っても、口元に食べ物を持っていくことは、少し怖いようで、あげるのは私の役目でしたが・・・

3回目の時には、家にいる時から「今日は人参をあげるんだ！！」と言っていたので、人参をあげる時にも、本人なりに、いつもより少しは頑張っていたようでした。でも、1メートルくらい離れていたもので、さすがに届きませんでした。が、やってみようという意欲が湧いたことに、成長を感じました。

私も、毎回理沙と一緒に最後まで居させていただき、麗輝君と麗峰君と触れ合う機会をたくさんいただいたので、この頃から、初めは大ききすら同じに見

えていた2頭の違いを感じることも増え、しぐさや表情などの違いもわかり、2頭の愛らしさに癒されました。



ボロ作業（馬糞処理）を手伝う理沙ちゃん

4回目の参加は、乗馬後に、ベンチに寝ころがったり、いつも以上にリラックスして参加していたように思います。お片付けになって、お馬さんの糞を捨てに行く時に、「理沙もやりたい！」と一緒にやらせてもらったり、水をまくのを一緒にやらせてもらったり、本人がやりたいという気持ちを伝えると、快く参加させていただきま

した。いつも傍から見ていると、どう考えても足手まといですが、理沙のやる気と、学生さんの優しい対応に甘え、一緒に作業する様子を見させていただきました。

7月に入り、5回目の馬とふれ合う会は、お天気も微妙で、中野先生もギリギリまで迷ってくださって、結果、実施されることになりました。その日は、確実に無理だろうと諦め半分で、理沙ががっかりしないように、「今日は、お馬さんが無いかもしれないよ～」と、気持ちの切り替えをさせていたところに朗報だったので、理沙も「やったー！！」と大喜びでした。

いつ雨が降り出すかもわからないお天気の中で、お馬さんのお世話だけ・・・という可能性も考えて、リンゴと人参を持って、「お馬さんがお部屋にいたら、お馬さんには乗れないから、リンゴと人参をあげて帰るんだよ。」と言い聞かせつつ出発、となりました。その為か、到着後からやる気満々の理沙で、イヤーマフの存在すら忘れていました。

乗馬中は相変わらず、学生さんたちとの会話を楽しんでいました。この時はイランからおばあちゃんが遊びに来ていましたが、おばあちゃんが「お話ばかりしてこっちを向かない。」と話していたほど、本人は楽しんでいました。(笑)最後に、おばあちゃんも一緒に写真を撮らせていただいて、楽しかったようで、家に帰ってからイランにメールを送ったり、楽しい時間を過ごさせていただきました。

帰りに坂道で4センチくらいの小さいカニを見つけてビックリ！！ということもありました。時には、タヌキに出会うことも！！本当に、自然が豊かなと

ころで「馬とふれ合う会」に参加させていただけて幸せなことだなあ～と思います。

前期最後の「馬とふれ合う会」は少し風があり、テントが飛ばされた時にはビックリしました。でも、中野先生がおっしゃっていた「馬がビックリしなくてよかった。」という言葉聞き、お馬さんの繊細さを改めて実感しました。私たちも慌ててしまったので、ああいう時でも、落ち着いて対応しなくては・・・と反省したこともありました。

学生さんと一緒にお馬さんのおやつの干し草を馬房に入れさせていただいたこともありましたが、帰りながら「干し草の匂いがしてきた～」と喜んでいました。この頃、理沙は、「お馬さんの体を洗いたい！」などと、危険などを予測していない理沙には無謀とも思える発言をしていました。

前期は、夏休みの自由研究に向けて、毎回写真を撮らせていただいたり、いろいろ質問させていただきましたが、夏休みに入り、早速自由研究に取りかかりました。

プリントアウトした写真を、ちょうどよい大きさに切ることと、貼ること、調べたことを書くことが理沙の仕事です。マスがないところに字を書くと曲がってしまったり、字を書くこと自体が苦手&ほぼ平仮名しか書けない理沙なので、まとめきれるか・・・と思いましたが、毎日1ページ書く！！と決めて、一生懸命取り組みました。普段、書きたがらない漢字もゆっくり頑張って書いていました。最終的に26ページにまとめ、夏休み明けに学校に提出し、みんなに褒められて喜んでいました。担任の先生にも、「お馬さんのまとめ、すごいですね！こんなに書けていてビックリしました！」と驚かれました。

夏休み中、お馬さんのことを考えていたためか、休みの間中「お馬さんに会いに行こうか？いつ行く？いつ行く？」と、後期の「馬とふれ合う会」を心待ちにしていました。

待ちに待った後期の「馬とふれ合う会」はとても嬉しそうに参加させていただきました。久しぶりの乗馬でしたが、学生さんが、理沙の苦手な音などを気にしてくださり、大変ありがたかったのを覚えています。乗馬終わりには、たくさんの思いがあったためか、お馬さんから降りたくないという気持ちを、お馬さんに抱きついて、体で表現していました。

後期の2回目は悪天候で中止になり残念でしたが、その次は雨予報の中の開催でした。乗馬中に、誰に話しかけているのかな～と思ったら、最後に「ねっ、しっぽ！」と、馬のしっぽに話しかけていたり、絶好調の理沙でした。（笑）帰りには、理沙の希望もあり、安全を確保したうえで、タオルでお馬さんの体をふかせていただいたり、前期には1メートルくらいの所までしか近づけなかった人参やりも、学生さんと一緒にやっていただき、鼻先まで近寄ることが出来るようになっていました。この分なら、いつか一人であげられる日が来るかも！と淡い期待が生まれました。

今年は、大学祭にも伺わせていただきました。「馬糞ドーナツを買いに行くぞ～！！」と勢い込んで出掛け、スタンプラリーや、ちびっこが参加できる催しにも参加しました。苦手な音が満載でしたが、いつもなら精神的に疲れが来そうな状況でも、なれた場所で安心感があったからでしょうか、頑張ってゲームに参加したり、あちこち見て回ったり、たくましく成長した様子を見てとれました。

後期もいろいろな出来事があり、こんなに素敵な会ですよと、沢山のの人に知ってもらいたいというような事がたくさんありました。

今年度、たびたび思ったこと・・・それは、学生さんたちの対応です。本当に、なんでこんなに良い対応が出来るのか???と、びっくりさせられることが沢山ありました！！理沙がやりたいということは、時間がかかっても、無理ない範囲で体験させてくれます。嫌がらずに、当たり前のように、にこやかに。

こんなことがありました。厩舎に戻り、掃除の時間、溝にたまった葉っぱを取る作業をやリたがった理沙・・・不器用なので、とても時間がかかるのです。他のところは終わっているのに、ゆっくりゆっくり・・・そこでの学生さんの対応が「ここまで理沙ちゃんお願いね」と言って、理沙がやりこなせる分を考えつつ、仕事を残して、終わるのをじっと待っていてくれるのです。おかげで理沙は達成感を得て、満足して帰ることができました。



溝の枯葉除去作業 「ここは私の担当！」

最後の日も、乗馬後厩舎の片づけ等終わり、餌をあげるまで帰らないというので、時間まで部室にお邪魔していました。部長さんが、日誌を書いている時に、目の前で飲み物をこぼしてしまったのです。日誌は、びっしょり濡れてしまいました。そこで、普通なら、焦って、ああ～大変だ～！！となりそうなのですが、その時にしていただいた対応が、全く焦ることなく、動じず、「うん、大丈夫。紙は沢山あるからね。」でした。それだけでも、すごいなあ～！と思うところですが、拭き終わってから、「ほら、元通り！！」とニッコリ！！

麗澤大学の「馬とふれ合う会」には、こんなに心の温かい学生さんがたくさんいて、その学生さん達や、先生、ボランティアの方々に見守っていただいて、この会に参加出来ることは、本当に幸せなことで、感謝の気持ちでいっぱいです。1年間たくさんの愛情と、お馬さんとの素敵なふれ合いの時間をいただきありがとうございました。

2. 中山 実佳（和哉くんのお母さん）

中山 和哉くん（6才）

軽度精神発達遅延（自閉症スペクトラム）

今年度の後期から、初めて馬とふれあう会に参加させて頂きました。息子の和哉は年少時に自閉症と診断されました。コミュニケーションが取りづらく、精神年齢が約1歳幼い感じで、指示理解を苦手になっています。幼稚園を主としながら児童発達支援所にも通園して、だいぶ出来ることも増えてきましたが、運動面で何か出来ないかなと調べていたときに、麗澤大学の馬とふれ合う会のことを知りました。本人に「馬に会ってみる？」と聞いたところ、「いいよ！」と返事があり、参加を決めました。

初回はやはり本物の馬の大きさに驚いたのか怖がっていました。触るのも怖がっていました。しかし、顧問の中野先生や馬術部の部員の方々に優しく接していただき、馬を近くで見ることができました。和哉は色にこだわることもあり、その時は「青」が好きで、紐の色が青だった麗峰くんに興味を持ちました。実際に乗馬しようとしたら「こわい！」と怖がり、親の私が乗馬をして和哉が紐を引くという形になりました。本人は紐の色も青で部員の方にも話しかけら

れて楽しそうでした。砂場が好きで、馬場も砂なので、それも楽しめた要因だったように思います。休みながら約30分間歩いたり、土をいじったり、部員の方と話をしたりと本人は満足した様子でした。初回は馬に乗ることは出来ませんでしたが、少しずつ馬との距離も近づけたらいいなと思いました。「馬の会に参加する？」と聞くと「いいよ。和哉は麗峰くんね」と指名をしていました。本人がちゃんと麗峰くんと麗輝くんを覚えていて驚きました。



ポニーなら大丈夫！

その後も、麗峰くんを指名して紐を引くことが本人の役目だと思ったのか、乗馬はせず、麗峰くんを引っ張っていました。会を重ねるごとに馬との距離が近くなっていくのを見て面白かったです。2回目で触って見て、次に鐙に触り、その次に中野先生に抱きかかえて貰い馬に跨ろうとしましたが、そこは怖がって出来ませんでした。今年度は乗馬までいきませんが、来年度は乗馬ができればすごいなと思います。

馬とふれ合う会に参加しているためか、幼稚園でのふれあい動物園での馬（ポニー）には「泣かずに乗れましたよ」と先生から報告してもらいました。

麗峰くんや麗輝くんに会えるのはもちろん、中野先生や部員の方々、他の参加者の方々に会ってコミュニケーションを取るのも楽しみにしているのかなと思います。多くの方と触れ合うのは良い刺激にもなり、私自身もとてもよい経験になりました。乗馬をしていると気持ちよく、自分のリラックスにもなっていました。どうしても余裕がなくなってしまうことが多く、馬とふれ合う会に参加して気分をリフレッシュすることができてとても満足しています。

来年度は和哉も小学生になり、生活スタイルが変わるので、どう気持ちがついていくか分かりませんが、この馬とふれ合う会で良い刺激を受けて欲しいなと思います。

3. 大塚 香織（伸夫くんのお母さん）

大塚 伸夫 くん（6才）
発達障害（自閉症、知的障害）

自閉症の6歳の息子です。今年度から初めて参加させて頂きました。動物と直に触れるのは初めての体験で、最初はどうなるか不安もありましたが、始まった途端、そんな不安も一瞬で消えました。馬の高さと、揺れやリズムの心地よさがリラックスさせてくれ、自然に笑顔が出てきました。馬術部のお姉さんから「天使の微笑み」と言ってくださったのがとても印象的で嬉しかったです。途中からは余りの心地よさに寝てしまう場面もあり、落ちないかハラハラしてしまうことも多々ありました。

後半は、馬の認識が出てくるようになり、「今日は風邪引いちゃったからお休みだね」と言うと、寂しそうに「うま、うま」と馬に乗ることを楽しみにしていた気持ちが表われ、心の成長が感じられました。来年度は馬との触れ合いの中で、どんな息子の成長が見られるか楽しみにになりました。

また馬に触れられる場所が近くにあり、環境に恵まれ、とても有り難いです。このような機会をいただいた、中野先生をはじめ、馬術部の皆さん、ボランティアの方々にも大変お世話になり感謝しています。

来年度も宜しく願いいたします。

4. 野口 はるな（ボランティア、馬術部卒業生）

私は2012年に麗澤大学を卒業しました。就職し、辛いこと、苦しいことも多々ありましたが、入社6年目にもなり、社会人としての余裕が持てるようにもなりました。

2年ほど前に旅先でふと馬に出会いました。千葉の九十九里の牧場で海岸で乗馬をしたことがきっかけで、再び馬の魅力に引き込まれていきました。

学生時代の馬術部を懐かしく思い、2017年9月、約6年ぶりに大学、馬術部に訪れることになりました。6年も経っているのに、馬術部の環境、麗輝、麗峰の風貌と性格、すべて変わっていないことにとても感動しました。

麗澤の馬術部では、乗馬や馬のお世話だけではなく、BBQなど普段ではできないことをたくさん経験させていただきました。私にとって馬術部は、楽しかったこと、辛かった記憶、自分を情けなく思う気持ち、今まで馬術部に顔も出さなかった引け目など、さまざまな思いが交錯しているのですが、学生の頃に仲間たち、馬たちと一緒に過ごした素晴らしい思い出に溢れています。

また麗輝、麗峰に会いたいと思ったことがきっかけで、顧問の中野先生から馬とふれ合う会のお誘いをいただき、ボランティアとして参加させていただくことになりました。

当日までは、参加する楽しさと子供たちと上手く接することができるかの不安がよぎっておりました。開始時間になると、次々に子供たちが厩舎にやって来ました。1人当たり30分ぐらい乗馬をします。学生とボランティアは1人が馬を曳き、2人は子供の両側について一緒に歩きます。

私は最初何をして良いか分からず、見学をしているだけでしたが、中野先生に呼ばれ、馬と一緒に歩くことになりました。一緒に歩くことは、私にとってかなりの運動になりました。初回は馬場の砂に足を取られて、息を切らしてしまい、今後やっていけるか不安になりましたが、2回、3回と参加しているうちに慣れてきました。

子供たちはちゃんと挨拶の出来る良い子たちで、みんな馬たちのことが大好きな様子でした。初めて参加した時から、「子供たちとうまく接することができるかなあ」という私の不安な気持ちはすぐに無くなりました。準備の時から乗馬が終わるまで、中野先生、学生さんたちは、温かく賑やかな環境を作り出

していて、いつも笑い声や笑顔が絶えませんでした。それだけではなく、馬たちの前では誰もがリラックスできて、自然と笑顔になれるのだと思います。

障害者と言われている子供たちは、障害はあるけれど、それを乗り越えて、大きな馬に乗る勇気、活力のある子供たちだと感じました。その子供たちに手助けをしている器の大きさ、社会貢献をする姿勢に「麗澤らしさ」を感じます。

また麗輝、麗峰は、いつどんな時も優しい目をしています。私たちを癒してくれたり、元気づけてくれたり、可笑しなことをして笑わせてくれたりもします。2頭の馬たちがこんなにも心穏やかで優しいのは、麗澤の環境がそのようにさせているのではないかと感じます。馬たちの環境は十分過ぎる程整っています。緑豊かな森の中にある馬房、広い馬場で、馬たちはのびのびと過ごしています。それに、毎日部員の皆さんがお世話をしてくれて、毛並みや馬体はピカピカに輝いています。大切に育てられているからこそ、馬が人間のことを優しい目で見つめ、寄り添い、人間の指示に従い、頼ってくれるのだと思います。

「馬とふれ合う会」の話を母にしたところ、大変興味を持ち、母も一緒に参加させていただくことになりました。親子で行動することも少なくなってきた今、母校で一緒に活動ができてとても嬉しいです。快く受け入れてくださった中野先生や部員の皆さんに大変感謝しております。本当にありがとうございました。

このように、馬の会に参加して多くの発見がありました。ボランティアとしては微力ですが、来期も楽しみにしております。

また、少しでも馬に興味がある方がおられたら、私たちと一緒に馬とふれ合い、癒されましょう！ ぜひ「馬とふれ合う会」をお勧めします。

5. 野口 晃子（ボランティア、野口はるなの母親）

中野先生はじめ関係者さま、馬術部員の皆さま、この麗澤の馬とふれ合う会の開催にあたりまして、お心尽くしの準備から各当日のご活躍と、全行程の無事終了に心からお喜び申し上げます。しばらくのお休み期間（春休み）は寂しくありますが、開催の方々におかれましては、一年間の無事の活動修了にほっとされ、きっと大きな満足感を得ていらっしゃることでしょう。

娘が在学中に馬術部でお世話になりました。その娘に乗馬クラブの無料体験の誘いを受けて乗馬を始め1年が経つところですが、馬の手入れ、馬装もまだまだ未熟者で、騎乗はさらに難しく、時により上手く出来たり出来なかったりと思うようにいかないもので、皆様の前で乗らせていただくのはお恥ずかしい限りです。この度、ご縁をいただきまして、晩秋より親子で参加させていただきました。

娘の在学中から可愛い可愛い麗澤の愛馬、麗輝号と麗峰号との再会に喜び、騎乗させていただけたことに心が舞い上がって、今もウキウキと嬉しさが止まりません。参加の皆さまとの交流もとても楽しくさせていただき、本当にありがとうございました。

以前から馬とふれあう会の活動内容などを娘から聞いていました。麗澤大学馬術部は、馬と共に人々に喜ばれる価値ある活動が続け、素晴らしいと思っております。

実際に参加してみますと、周りを木々に囲われたリゾートのような環境のなか、部員さんと馬からもたらされるヒーリング効果（癒し力）がとても高いと感じました。そこに先生のご指導の匙加減を加えての三位一体で、その場に居るもの全員に笑顔と元気を引き出す優しいパワーが心身に溢れてきます。次々にやってくる親子さんに甲斐甲斐しい部員さんたちはとても頼もしく、その様子に心がなごみ、居心地も良くなってきます。日常では味わえない特別な体験となりました。

部員さんたちの活動の姿はとても爽やかです。作業も手慣れており、ピリピリとした感情は一切なく、訪れる人に安心感とリラックスを促す心温まる光景です。この雰囲気様が大切に、からだの大きなお馬に、子どもさん方に少しばかり怖さがあってもカバーしてしまうようです。お子さんの手を取り楽しく朗らかに優しいトークとエスコートで乗る方、見ている方、大安心です。

馬上のお子さんは上手にバランスをとりながら常歩行進し、とても楽しそうです。そのチャレンジを見守る親御さん方も、お馬たちの頑張りに思わず微笑んでしまうようにお見受けします。降りたあとも部員さんと乗せてくれたお馬にきちんと挨拶をかわされていました。お子さんの笑顔は親にとって何よりの喜びですね。馬の会参加が心身の健康促進、何か前向きになっていけるような希望も感じつつ、何よりも親子の対話と絆がより良いものになるよう祈っています。

またお馬にとっても、人間に頼りにされ、喜び愛されることが存在価値の高さではないかと思います。麗輝号と麗峰号の健康も願いつつ、ひとりでも多くの人々とたくさんの感動の出会いがありますように。

こうしてまた再会できたのも、部員さんたちの途切れることなく、ひたすら続いていく大量の食事やり、お世話お手入れの賜物です。それがなければ、この馬とふれ合う会もないですものね。毎日のお世話本当にありがとうございます。

また中野先生にも感謝しております。お会いするまでとても緊張していたのですが、お会いしてみるとにこやかでユーモアがあり、小さなお子さんに向けて優しい眼差しが周りの空気を和ませ、安心感をくださる方でした。まだ1度しか見ておりませんが、魔法のような騎乗をまた見せて下さい。真の馬術って凄いです。色々ありがとうございました。

新年度も、私は馬場にて部員さんたちを応援して行きたいと思っております。

最後に親心からのお節介として。

部員さんの親御さん方に一度は麗澤の馬場にいらしていただき、この活動で活躍するお子さんたちの姿をご覧いただけたら良いなあと思います。在学の4年間というのは、長いようであつという間で時は戻りません。お子さんの曳く愛馬にぜひ乗ってみてください。その楽しさを知る者としてのアドバイスで恐縮ですが、私だけ楽しんでいてはもったいないです。麗澤の素敵な馬たちと親子の絆、ぜひこの馬場で思い出の1ページに綴ってもらいたいです。



追伸：

参加の初日に写真と動画を撮って下さった部員さん、本当にありがとうございます。

娘との騎乗写真は一生の大切な宝物です！！

6. 増田 彩菜（麗澤大学馬術部2年生）

私はこの麗澤馬術部で今までにない体験をさせてもらいました。この「馬とふれ合う会」というのは、障がい者の子供たちに馬にふれ合ってもらうことで、普段の生活から少し離れて心身共にリラックスしてもらい、子供たちの成長をお手伝いする活動です。

私はこの1年間、子供たちが馬とのふれ合いで体を動かしながら楽しい時間を過ごしてもらえるように活動してきました。初めて馬とふれ合う会に参加させてもらったときは、初めて会う子供たちやその親御さんたちとどんな話をしたら良いのか、子供たちは楽しんでいるのかなど不安しかありませんでした。途中で話が途切れてしまったり、先輩やスタッフさんが話しているのをただ聞いていたり、いろいろと課題が残ってしまった初回でした。しかし、子供たちに会う回数が増えるたびに子供たちも少しずつではありますが、心を開いてくれていると感じます。

それを感じたのは、馬を引いている時、いつもはこちらから話を始めていたのが、子供たちが自分から話をしてくれてくれた時です。学校での出来事や最近起こった出来事などいろんな話をしてくれます。こんなに楽しい話をしてくれる子供たちでも、親御さんたちの話を聞いていると、普段学校では大人しくしていて、お友達と話すことが苦手だと言っていました。

親御さんの中には馬とふれ合う会に参加してからの子供たちの変貌ぶりに驚く方も少なくありません。それだけこの馬とふれ合う会には大きな価値があると思います。子供たちのあの生き生きとした笑顔を見ると、私たちも疲れを忘れて元気をもらえます。そして、また次の馬の会も子供たちのために頑張ろうと思えるのです。

こうした体験は普段の大学生活の中では味わうことができません。この活動を通して学ぶことも多くあります。子供たちが馬とふれ合うだけではなく、部員やボランティアさんとの会話の中で学校とは違う社会に接し、これまでとは違う刺激の中でいろんなことを感じていると思いました。

私たち部員も、子供たちの成長のお手伝いができているのであれば、とても嬉しく思います。2018年度も馬の会で子供たちと過ごす時間を大切に、部員全員が一つになって取り組んでいきたいです。

（以上）